

平成24年度 政策評価書（事後の事業評価）

担当部局等名：経理装備局システム装備課

評価実施時期：平成25年1月～平成25年3月

- 1 事業名
88式地对艦誘導弾システム（改）の開発
- 2 政策体系上の位置付け
科学技術の発展への対応（研究開発の推進）
- 3 事業の概要等
 - (1) 事業の概要
88式地对艦誘導弾の後継として、地对艦ミサイル連隊等に装備し、洋上の艦船を撃破するために使用する装備品として、現有装備から射撃に関する能力及び残存性の向上を図った88式地对艦誘導弾システム（改）を開発した。
 - (2) 所要経費
約138億円（試作総経費）
 - (3) 事業実施の時期
平成13年度から平成18年度まで試作を実施し、平成15年度から平成23年度まで試験を実施した。なお、開発事業の途中「平成17年度以降に係る防衛計画の大綱」及び「中期防衛力整備計画（平成17年度～平成21年度）」の策定により、陸上自衛隊地对艦ミサイル連隊等の整備構想が変更となり、装備化予定年度を当初の平成20年度から平成24年度へ先送りしたことを受けて、事業線表を見直した。
- 4 評価のねらい
研究開発事業のうち、完了した技術開発について事後評価を実施したもの。本開発の実施により、当初の目標が達成され、目的の技術資料等が得られたかを確認し、評価を行った。
- 5 政策評価の結果
 - (1) 必要性
敵の対艦ミサイル対処能力向上等により、現有の88式地对艦誘導弾では、残存性が低下するとともに、射撃に関する能力等が不足する可能性があり、また、現有装備の性能を改善するには、単なる改修では対応できないことが見込まれていた。さらに、諸外国類似装備品には、将来の地对艦誘導弾として、これらの能力向上が図られた装備品は存在していなかった。したがって、新たな地对艦誘導弾（88式地对艦誘導弾システム（改））を開発する必要がある。
 - (2) 効率性
本事業では、これまでに国内開発した類似誘導弾等の試作成果及び技術的知見を活用することによって技術的課題を解明するとともに、設計及び試作において民生技術及び民生部品を適用することにより、試作コストを抑制し、効率的に開発を実施した。
 - (3) 有効性
 - ア 得ようとした効果
次に示す要求性能に対して、目標性能を定め、試作及び試験を実施した。
 - (ア) 射撃に関する能力の向上（目標情報更新、目標大小判別及び指揮統制機能の向上、命中点のばらつき低減並びに再装てん時間の短縮）
 - (イ) 残存性の向上（同時弾着、地形に沿った飛しょう及び高射角発射）
 - (ウ) ライフサイクルコストの抑制
 - イ 効果の把握の仕方
本事業の効果は、まず、技術研究本部において、技術開発実施計画書の目標性能等に基づいて設計された試作品の機能・性能が設計に適合するか否かを確認するため、設計条件の下で技術試験を実施することにより把握した。
続いて、陸上自衛隊において、技術試験で機能・性能が担保された試作品が自衛隊の装備品として使用目的に適合するか否かを確認するため、実運用シナリオに基づく環境

下（模擬を含む。）で隊員が操作及び判断を行う実用試験を実施することにより効果を把握した。

ウ 達成された効果

現有の88式地対艦誘導弾の後継として、射撃に関する能力の向上及び残存性の向上を実現した88式地対艦誘導弾システム（改）を陸上自衛隊の地対艦ミサイル連隊等に配備することにより、効果的な対艦戦闘が可能となる。

また、既存技術、民生技術、民生部品等を活用した結果、本開発の中で設定した見積量産単価の目標値を達成し、現有装備品より低価格化が実現できたことから、ライフサイクルコストの抑制に有効である。

主要な実用試験結果の概要は下表のとおり。

主要な要求性能		評価要領	試験結果
搜索標定装置	目標識別性能	大目標を的確に識別しこれに対し火力を指向するため、最大探知距離付近において大小判別ができることを確認	○
誘導弾 初中期誘導性能	地上飛しょう間	誘導弾の地上飛しょう間の残存性を向上させるため、指定された経路に基づき、緊要な場所において地形に沿う飛しょうができることを確認	○
誘導弾 終末誘導性能	同時弾着	近接防空火器C I W S ^(注1) に対し誘導弾の残存性を向上させるため、同一艦船に複数指向した場合の弾着時間差が小さいことを確認	○
指揮統制装置	指揮・射撃統制	迅速かつ適確に部隊運用及び射撃指揮を行うため、火力戦闘指揮統制システムと接続できることを確認	○
発射機	機動性	現有装備と同様の運用を行うため、誘導弾を積載したまま迅速に路外を機動でき、現有と同等以上の機動性を有することを確認	○
システム性能	操用性	同一船団に対し泊地到達以前に2回目の射撃を実施するため、現有より短時間で誘導弾の再装てんが実施できることを確認	○
	補給整備性	各地上装置について、予防整備性試験、故障整備性試験及び野外整備性試験を実施し、現有と同等以上の補給整備性を有することを確認	○

(注1) C I W S : Close-In Weapon System

6 課題、問題点等への対応

(1) 課題、問題点等

平成20年度の発射試験において、誘導弾の不具合が発生し、試験を中断した。

(2) 要因分析

原因究明を行ったところ、飛しょう中に誘導弾の操舵翼に予期せぬ振動が発生したことが判明した。

(3) 改善事項とその有効性

振動対策を行い、模擬飛しょう環境下で振動が発生しないことを確認した。その後、振動対策の有効性の確認を含め、対策を施した誘導弾で再度発射試験を実施し、要求性能を満足すること及び振動対策は有効であることを確認した。

7 総合的評価

本開発の結果として、現有の装備から射撃に関する能力の向上及び残存性の向上を実現した事業であると評価できる。

なお、平成23年度末に実施された装備審査会議において、装備品等の技術研究開発に関する訓令（防衛庁訓令第25号）に基づき陸上幕僚監部から実用試験成果報告がなされ、防衛省研究開発評価実施要領に示された、実用試験における要求性能の達成度、部隊における実用性に関する観点及び見積量産単価の達成度の観点からの評価を踏まえつつ、審議を行った結果、「陸上自衛隊の要求性能を満足し、部隊の使用に供し得ると認める。名称は、「12式地対艦誘導弾」とすることが妥当である。」旨答申された。

- 8 政策等への反映の方向性
総合的評価を踏まえ、88式地对艦誘導弾の後継として、12式地对艦誘導弾の整備を平成24年度から行う。
- 9 その他の参考情報
運用構想図及び開発線表